

令和6年度入学 総合型選抜

レクチャー①・レクチャーレポート・レクチャー②・ふりかえりレポート 講評

レクチャー①

【概要】

テーマ：少子高齢化と労働

人口減少と少子高齢化が「働く」ことへ与える影響について、生産年齢人口と労働力人口の推移、年齢別・男女別労働力人口の推移、労働生産性の推移と国際比較、労働時間の変化に着目し、それらの定義やデータを示しながら具体的に説明した。併せて、「物流の2024問題」を取り上げ、労働時間の短縮が社会に負の影響をもたらす場合もあること、その対応はサービス提供側だけの努力では限界があり、利用者側の理解と連携が必要であることについても、思考を促した。

レクチャーレポート

レクチャー①で解説した図表や考え方を正しく理解できているかを問うとともに、複数の図表から適切な情報を抽出・整理し、論理的に説明できる力をみることをねらいとした。

問1

【出題のねらい】

生産年齢と労働力人口の関係を素材に適切な図表を選び出し、正しく読み取ることができているかを問うた。与えられたデータから仮説を立て、論理的に説明できる力をみることをねらいとした。

【講評】

(1) 指定された【図表3】から、「生産年齢人口の減少理由」を説明する問題である。生産年齢人口に加わる年代の人数と外れた年代の人数に差があることは説明できているが、加わる年代の人数より、外れる年代の人数のほうが大きいという関係にまでは言及できていない、すなわち説明が不十分な解答も多くみられた。

(2) 労働力人口が増加している要因として、【図表6】から、生産年齢人口における女性労働力率の上昇と、老年人口における労働力率の上昇を読み取って説明する問題である。該当する年齢幅や性別への言及も必要となるが、データの詳細まで触れられていない解答が多くみられた。

(3) 労働力人口の推移における増加要因と減少要因を、【図表2】及び【図表6】から読み取り、それぞれについての仮説を立てる問題である。増加要因は、問1(2)で述べたことが仮説の

根拠となり、減少要因は、少子化に加えて高齢者も減少局面に入ること根拠とする必要があるが、高齢者の減少という要素まで指摘できた解答は少なかった。

問 2

【出題のねらい】

就業者一人当たりの労働生産性、及び一時間当たりの労働生産性を素材に、計算力、式の構造の理解力、及びこれらの数学的知見に関する図表を関連付ける力をみることをねらいとした。

【講評】

(1) 一定の期間における二つの労働生産性の変化率を求める計算問題である。年代の取り違いによる数値ミスや、計算間違いも多くみられた。

(2) GDP、すなわち分子が一定であるという条件のもと、解（労働生産性）と分母（就業者数あるいは総労働時間）の増減関係を文章で説明する問題である。(1)で自らが求めた値になった要因を、労働生産性の定義式に基づいて言葉で説明する問題であるが、この種の思考に不慣れなためか、関係を説明し切れていない解答が多くみられた。特に、二つの労働生産性の分母の関係に言及できていない解答が多くみられた。

(3) 問 2(1) 及び問 2(2)より得られた、就業者数の増加と労働時間の減少という結果を、レクチャー①で取り上げた、働き方の変化と関連付ける問題である。就業者数を【図表 6】、労働時間を【図表 14】と適切に結びつける解答は多くみられた。しかし、図表の選択を誤っている解答、あるいは適切な図表を選択しても増加や減少を説明する要件に見落としのある解答も多くみられた。

問 3

【出題のねらい】

「物流の 2024 問題」を素材に、適切な図表からの的確に情報を整理・説明する力及びその情報を自分事として置き換え、考察する応用力をみることをねらいとした。

【講評】

(1) 「物流の 2024 問題」で懸念されている労働力不足について、【図表 17】から「物流の状況」、【図表 18】からトラックドライバーの「働き方」、【図表 15】から「労働時間の規制」を具体的に整理し、説明する問題である。「物流の状況」、すなわち仕事量の増加に触れず、労働状況と労働時間短縮、すなわち「働き方」のみから輸送力不足の懸念を説明する解答が比較的多くみられた。また、若干ではあるが、「物流の 2024 問題」における懸念を、労働時間の規制や短縮と誤解している解答もみられた。

(2) 物流業界の取り組みだけでは改善が難しく荷主企業との連携が必要であることを、【図

表 19】に示された三点から説明する問題である。概ねの解答において連携の必要性は触れられていたが、問題の発生要因が荷主側の都合によるところが大きいという点に触れていない解答が多くみられた。

(3) 企業間の問題として扱ってきた業務時間の短縮や業務量の削減、あるいは相応の料金負担という問題を、自らの宅配サービス利用に置き換え、自分ができることを論じる問題である。自分の経験や取り組みは述べられていたが、それがどの問題の解消に繋がるのかに触れていない解答が多くみられた。また、他者の取り組みのみを述べ、自分ができる事に触れていない解答も多くみられた。

レクチャー②

【概要】

テーマ： 人手不足と情報化・機械化

少子高齢化が進む日本においては、人手不足への対処が必要であり、まず、その対処方法について解説した。次に、外食産業を事例に挙げ、この産業では特に増員によって人手不足を解消することが困難であることを解説し、情報化や機械化することによる解決の可能性を提示した。その上で、外食産業における情報化・機械化の事例について、具体的な方法を導入の狙いとともに紹介した。これらの方策にはメリットもあるがデメリット（課題）もあり、利用客やスタッフそれぞれの立場で異なること、業態の違いによって導入しやすいものや、しにくいものが存在することについても説明を加えた。

ふりかえりレポート

レクチャー②の内容を正しく理解し、複数の資料を活用して、情報化・機械化のメリットとデメリットについて正しく説明できるか、業態が異なると接客において重視されるべき項目や、導入されるべき機器が異なる点について、明確な根拠を示しながら述べることを問うた。グループワークでの他者の意見を参考にして、自身の考え・主張を客観的に表現する力と、二つのレクチャーとグループワークを通して自らの考えがどう変化したか、あるいは深まったかを、論理的に説明できる力をみることをねらいとした。

問 1

【出題のねらい】

レクチャー②の内容を正しく理解し、複数の資料を活用して、労働生産性の概念、情報化・機械化の利用客・スタッフそれぞれにとってのメリット・デメリット、経営者のねらいとの乖離とその対処法について問う問題である。

【講評】

(1) 人手不足への対処方法として示したB:増員による対処とC:情報化・機械化による対処の、労働生産性の違いを問う問題である。BとCの違いを明確に説明できていない解答や、具体的な数字を挙げていないためにどちらの対処方法がよいかの根拠を示していない解答が多くみられた。

(2) デジタルメニューブック導入による、利用者とスタッフそれぞれのメリットやデメリットを問う問題である。【図表11】から、利用者とスタッフの別に適切な項目を抜き出し、要約する必要があったが、資料を読み取れずに不要な項目を書いている解答、抜け落ちている解答などがみられた。

(3) 情報化・機械化のねらいと、導入後の実際とのギャップを【図表8】から抽出し、ねらいが達成できたかを評価し、今後の方策について提案してもらう問題である。達成できた点は概ね言及できていたが、達成できていない点については言及されていなかったり、その根拠が示されていなかったりする解答が多くみられた。

問2

【出題のねらい】

グループワークでの他者の意見を参考に自らの考えを深め、自らの情報化・機械化に対する考え・主張を、根拠に基づいて論じるとともに、客観的に評価できる力をみることをねらいとした。

【講評】

(1) 洋食店Aの接客において重視する「項目」とその理由を問う問題である。最も重視する項目を適切に選んでいる解答が多く、その論拠についても概ね論じられていた。ただし、ファミリーレストランBとの比較が不十分な解答もみられた。

(2) 洋食店Aの接客において、どのような場面でどのような情報化・機械化を行うことになったかを、理由とともに説明する問題である。導入する機器と場面のマッチングについては概ね正しく解答できており、機器と人間の役割分担についても、半数以上が適切に解答していた。ただし、問2(1)との整合性がとれていない解答も多くみられた。

(3) 自己ワークやグループワークを経て、自分自身の考えがどのように変化したか、深まったかを論じる問題である。他者の意見に対する傾聴、自己の考えと照らした際の変化について、論理的に説明できるかを問うものであった。当初の考えや変化を具体的に述べることはできていたが、考えの変化に関する根拠についての具体性に乏しい解答が散見された。

問3

【出題のねらい】

情報化・機械化を他の産業に当てはめて考えさせ、これまでの自身の考え方が、レクチャー①、レクチャー②、自己ワーク、グループワークを経てどのように変化したか、または深まったかを、論理的に説明できる力をみることをねらいとした。

【講評】

これまでの経験に基づいた自分の考え方については、具体的に述べられている解答が多くみられた。しかし、どのように変わったか・深まったかについては具体性に乏しいものが多く、変わったこと・深まったことに関する根拠についても具体的に述べられていないものが多くみられた。また、他の産業にあてはめるという部分を読み落とし、外食産業について書いている解答も散見された。